

平成25年上尾市議会12月定例会
市政に対する一般質問 答弁要旨

(教育関連部分抜粋)

目 次

〔平成25年12月11日(水曜日)〕

●田中 元三郎 議員	1
1 にぎわいのある街づくりについて 【教育総務部長答弁】	
(1) 上尾市の行事開催について	
・シティマラソンでの安全対策、参加人数等	
・市民の催しものに対する市の後援条件、補助の基準	
●嶋田 一孝 議員	2
1 文化行政について(お囃子) 【教育総務部長答弁】	
(1) 現在市内において活動するお囃子(囃子連)の団体数	
(2) 継承するに当たって後継者対策等の課題や問題点について	
(3) 市の支援体制について	
●道下 文男 議員	3
1 教育の充実について 【学校教育部長答弁】	
(1) 大石北小学校で実施した「ものづくり技の教室」について	
(2) 上尾市中学生社会体験チャレンジ事業について	
・事業の目的、内容について	
・推進組織について	
・実績と効果、また、今後の方向について	
・事業所の認識について	
(3) 市内大学・専門学校との連携による教育の充実について	
(4) 上尾市独自の「ものづくり技の教室」の実施について	
●橋北 富雄 議員	5
1 水害対策について 【市民部長答弁】	
(1) 予測できない異常気象が続く中で上尾市の防災対策について	
・学校、保育園、幼稚園における災害非常時の子どもの命を守るマニュアルの作成について	

[平成25年12月12日(木曜日)]

●池野 耕司 議員 6

- 1 上尾市スポーツ振興計画の現状 **【教育総務部長答弁】**
- (1) スポーツ施設の整備・充実について
 - ・市民体育館の利用状況について
 - ・平方野球場のトイレの整備について
 - (2) 上尾シティマラソン大会の過去3年間の状況について
 - ・開催費用について
 - ・参加費、市の補助金について
 - ・招待大学の参加状況について
 - (3) 上尾シティマラソンでのボランティアの支援・活動状況について
 - (4) スポーツボランティア制度について

●鈴木 茂 議員 8

- 1 地域での自習支援の取組みについて **【教育総務部長答弁】**
- (1) さいたま土曜チャレンジスクールについて
 - (2) 上尾市に同様な取組みはあるかについて
 - (3) 魅力ある学校づくり事業における同様の取組があるかについて
 - (4) 宿題カフェろばの子の会について
 - (5) 地域の自習支援教室への支援について
- 2 発達障害児支援について **【学校教育部長答弁】**
- (1) 平成25年度のアピースマイルサポーターの配置要望人数と配置状況
 - (2) 特別支援教育コーディネーター、アピースマイルサポーター、担任との三者の連携

〔平成25年12月13日(金曜日)〕

●井上 茂 議員..... 10

1 上尾市特別支援教育基本方針【学校教育部長答弁】

- (1) 上尾市特別支援教育基本方針の進捗状況と課題について
- (2) 課題解決に向けた上尾市特別支援教育基本方針の改訂について

〔平成25年12月11日(水曜日)〕

◆田中 元三郎 議員

- | |
|---|
| <p>1 にぎわいのある街づくりについて
(1) 上尾市の行事開催について
・シティマラソンでの安全対策、参加人数等
・市民の催しものに対する市の後援条件、補助の基準</p> |
|---|

上尾市の行事開催について (教育総務部長 答弁)

○シティマラソンでの安全対策、参加人数等

上尾シティマラソンにおける安全対策であるが、走路については、道路の段差やくぼみを点検し、補修など路面整備を行っている。また、コースとなる道路には、約450人の監察員を体育協会加盟団体等からご協力いただき、各交差点に配置し走路の安全を確保している。特に、本年は上尾駅東口のペDESTリアンデッキが完成したことからデッキ上に観客が滞留しないよう監察員や警備員を増員したところである。また、「あったか汁」の提供については、長年、上尾市食生活改善推進員協議会の皆様にご協力をいただき、食材はできるだけ国産の物を使用し、アレルギーのある方への配慮として食材の成分表を表示している。次に、上尾シティマラソン、当日の参加スタート人数の推移についてだが、平成23年度 7, 333人、平成24年度 7, 964人、平成25年度 8, 234人 となっており、毎年増加している。

次に、市民以外の参加希望者への配慮についてであるが、前年参加者には、市内・市外問わず全員に募集要項等を送付しており、遠方からの参加者については、20名を限度に特別賞(はるばる賞)として記念品を授与している。また、市外関係団体への周知としまして、日本陸上競技連盟や各都道府県陸上競技協会、埼玉県内の市町村生涯スポーツ担当課に、募集要項とポスターを送付している。

次に、大会開催に伴う医療施設の手配についてであるが、上尾市医師会等を通じ、マラソンの競技役員として医師2名を配置しているほか、看護師及び消防職員も競技場とマラソンコース上へ配置している。また、大会本部に消防・警察・警備(委託業者)の詰所を設け、競技状況やランナーの状況を把握し、負傷者等の対応にあたっている。宿泊施設については、スポーツ総合センターの案内を募集要項とあわせて前年参加者に送付しているほか、市内宿泊施設の問い合わせ先として、上尾市観光協会の協力を得て照会している。食事場所やお土産については、競技場内の選手サービスエリア内にあったか汁を用意しているほか、市内業者を中心とする協力・協賛団体等の出店tentにおいて、軽食と上尾のお土産を扱った商品の販売を行っている。今後も、上尾シティマラソンをにぎわいの創出につながるイベントとして発展させていきたいと考えている。

○市民の催しものに対する市の後援条件、補助の基準

市民の催しものに対する市の後援条件についてだが、市及び上尾市教育委員会では、後援名義の承認等に係る基準を設け、その「目的及び内容が、本市の芸術、文化及びスポーツの振興並びに市民福祉の増進等に寄与すると認められ、かつ公共性のあるもの」としている。また、市民の催しものに対する補助についてであるが、上尾シティマラソンなど市自身もその実施主体の一員となり実施するイベントを行うために組織された実行委員会を対象としているものである。

◆嶋田 一孝 議員

1 文化行政について(お囃子)

- (1) 現在市内において活動するお囃子(囃子連)の団体数
- (2) 継承するに当たって後継者対策等の課題や問題点について
- (3) 市の支援体制について

文化行政について(お囃子) (教育総務部長 答弁)

○現在市内において活動するお囃子(囃子連)の団体数

市内には、指摘のように、葛飾区葛西神社の葛西囃子を起源とする江戸囃子が多く伝承されてきた。教育委員会では、この中から上尾市の西部から川越市にかけての、中心的な流派である堤崎の祭り囃子を、特に重要な文化財として上尾市指定無形民俗文化財として指定している。また、保存の措置が特に必要と認められる15団体の祭り囃子について、登録無形民俗文化財として認定・登録をしている。

そのほか、指定・登録文化財ではないが、平方新田地区や向山地区などで、お囃子を継承している団体がある。これらを合計すると、およそ20団体の囃子を継承する団体があるが、中には活動を休止されている団体もある。

○継承するに当たって後継者対策等の課題や問題点について

お囃子を伝承するに当たっての課題についてであるが、指摘のとおり、一番の課題は、後継者不足である。活動を休止したり、活動に支障をきたしている団体では、その原因の多くが、後継者不足によるものと聞いている。こうした課題への対策について、子どもたちに教えるなどといった後継者育成を行い、成果を上げているといった例も伺っている。しかし、後継者育成には、高度な演目や笛の伝承者の不足などの対策も必要とされている。また、祭り囃子に使用する太鼓などは、永く使用していると修理や買い替えが必要になるが、高額な支出となり、お囃子の継承団体の大きな負担となっている。

○市の支援体制について

教育委員会では、毎年、指定・登録文化財の所有者や保持団体に対し、修繕等の必要性について状況調査を実施し、補助金の交付に努めている。本年度は、平方のどろいんきょ保存会、藤波の餅つき踊り保存会に対して、衣装新調のための補助金を交付した。お囃子に関しては、平成21年度に、本町の祭り囃子を伝承する「本町はやし連」が行った太鼓修繕について補助金を交付している。また、指定無形民俗文化財の保存団体には、指定文化財維持交付金を交付している。お囃子の団体では、堤崎の祭り囃子保存会に対して、毎年3万円を交付している。このほか、お囃子のような無形民俗文化財については、技の伝承が大きな課題になっているが、教育委員会では、この対策として記録作成事業を実施している。お囃子に関しては、平成12・13年度に堤崎の祭りばやしの映像記録保存事業、平成23・24年度には、文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」を活用して、市内9団体の祭り囃子の映像記録事業を実施している。製作した映像記録は、主として各団体での伝承活動のための資料として活用していただいている。お囃子の伝承活動には、様々な課題があるが、教育委員会としては、公開の機会を増やすという観点から、市の開催するイベント等に出演していただくなども含め、引き続き必要な支援を実施していきたいと考えている。

◆道下 文男 議員

1 教育の充実について

- (1) 大石北小学校で実施した「ものづくり技の教室」について
- (2) 上尾市中学生社会体験チャレンジ事業について
 - ・事業の目的、内容について
 - ・推進組織について
 - ・実績と効果、また、今後の方向について
 - ・事業所の認識について
- (3) 市内大学・専門学校との連携による教育の充実について
- (4) 上尾市独自の「ものづくり技の教室」の実施について

大石北小学校で実施した「ものづくり技の教室」について （学校教育部長 答弁）

この事業は、埼玉県職業能力開発協会及び社団法人埼玉県技能士会連合会が主催した事業である。子どもたちが、優れた技能に触れつつ、技能士の指導の下(もと)、ものづくりを体験し、技能の重要性、素晴らしさを体感することを目的としている。平成13年度、県内1校で実施され、20年度からは毎年度3校で行われている。本市においては、本年、大石北小学校において、初めて開催された。

73名の技能士の方が来校し、6年生138名を対象に、各児童が選択した表札や畳づくりなど15種類もの、多様なものづくりの指導をしていただいた。児童は、様々な分野のスペシャリスト、匠の技能に直に触れ、真剣な表情で製作に取り組み、作品を完成させました。感想には、「家の人に見てもらい、大切にしていきたい。」「普段ではできない経験をさせてもらい、ありがとうございます。」「彫る手つきが、さすが職人さんという腕前で、とても感動した。」など、創り上げた喜びや、技能士の方々の技術の素晴らしさについて、児童の素直な感動があふれていた。この体験活動は、各分野のたくさんのスペシャリストの方々の懇切丁寧な児童一人一人への個別の御指導があり、実施できたものと受け止めているが、大きな成果をあげることができた。

上尾市中学生社会体験チャレンジ事業について （学校教育部長 答弁）

本事業は、地域での社会体験活動や人との触れ合いをとおして、主体的に自己の進路を選択できる能力を養うことを目的に、2年生が職場体験を行うものである。具体的には、各事業所でグループに分かれて2日間活動を行う。事前に職業調べ学習を行い、職場体験の目的意識を高め、事後学習として職場体験の報告書を作成し、視野を広げたり、思考を深めたりしている。この事業を円滑に実施するため、推進委員会を設置している。委員は、中学校長、PTA 会長、社会福祉法人、商工会議所、ロータリークラブ等事業所を代表する方々で構成し、生徒の受入れに関する事務について協議している。「実績と効果、今後の方向について」であるが、実績としては、今年度は延べ536の事業所で、2,129人の生徒が職場体験を行った。生徒の感想からは、将来の夢や職業など自分の生き方について、考えを広げる大きなきっかけになっていることがわかり、大変意義のある事業と捉えている。しかしながら、本事業を継続していくためには、受入れ事業所の理解・御協力なしでは成り立たないものと捉えている。教育委員会としては、今後も推進委員会と連携し、新規事業所の開拓等に努めていく。

市内大学・専門学校との連携による教育の充実について（学校教育部長 答弁）

本市では、市内の聖学院大学と教育における様々な分野で連携を図っている。本年度は、同大学と連携に関する包括協定を締結したが、教育委員会においては、平成16年度より協定を交わし、小学校に学習ボランティアを派遣していただくなど、連携を図ってきた。近年では、同大学の教授に、英語活動校内研修会や教師力アップ講座の講師として、教員への指導を行っていただいた。また、上尾市特別支援教育検討委員会、就学支援委員会及び幼児教育振興協議会等の委員として、専門的な立場からの御助言、御指導をいただいている。さらに教育委員会全体の事務に関する点検評価についても御助言をいただいている。また、上尾市医師会上尾看護学校の教職員や学生が、原市中学校の教職員を対象とした心肺蘇生法研修会の講師を務める等、連携を図っている。その他、地元専門学校で行われるオープンキャンパスに参加し、ものづくり体験をしている生徒もいる。今後も、市内の大学や専門学校との連携を密にし、本市教育の充実に努めていく。

上尾市独自の「ものづくり技の教室」の実施について（学校教育部長 答弁）

各学校では、図画工作や家庭、理科などの教科や総合的な学習の時間の中で、ものづくりに関する教育活動がある。例えば、小学校では、「上尾市まなびすと」の方々を招へいし、ものづくりを含めた日本文化に関する学習を行っている。先程も申し上げたように、「ものづくり技の教室」は、多くの技能士の方々の協力がなければ実施できないことから、今後、本市の関係団体とも連携を図りながら、検討していきたいと考えている。

◆橋北 富雄 議員

1 水害対策について

(1) 予測できない異常気象が続く中で上尾市の防災対策について

・学校、保育園、幼稚園における災害非常時の子どもの命を守るマニュアルの作成について

予測できない異常気象が続く中で上尾市の防災対策について（市民部長 答弁）

○学校、保育園、幼稚園における災害非常時の子どもの命を守るマニュアルの作成について

市内の公立学校、幼稚園及び保育所では、各所に適合した自然災害におけるマニュアルが整備されている。まず、小学校、中学校及び平方幼稚園については、平成24年3月に作成された「上尾市学校安全マニュアル(防災編)」がある。このマニュアルは、大地震発生時を想定したものであるが、学校における災害対策本部を設置することや緊急時の保護者への引渡し、児童生徒の学校への留め置きなどについて明記されている。また、保育所では、平成24年3月に改定された「上尾市立保育所危機管理対応要領」の中に「事故(災害)発生時の対応」が規定されている。この中では、自然災害が発生したときの保育所内の事前の準備と災害発生時の対応や帰宅できない残留児童への対応などが明記されている。いずれのマニュアルも昨今の異常気象に伴う自然被害にも適応したマニュアルとなっており、「上尾市地域防災計画」と連動した対策が施せるよう整備されている。

【再質問】公立学校や幼稚園、保育所などで、様々な予想できない状況が発生した場合の迅速かつ適切な避難行動を行うために、日頃からの防災意識を高め、より具体的な避難行動ができるように、どのような内容の訓練をしているのか。（学校教育部長 答弁）

東日本大震災の教訓を生かし、上尾市においては、平成24年3月に「上尾市学校安全マニュアル(防災編)」を作成した。その中には、震災時、保護者との連絡が取れない等の混乱があったので、「震度5弱以上の地震が発生した場合の学校側の対応を事前に保護者に手紙等で知らせておく」「緊急配信メールや災害伝言ダイヤルの活用など保護者との連絡手段を複数準備しておく」等の内容を記載し、各学校で対応をとるようにした。上尾市では、このマニュアルを基に、平成24年5月21日に市内小・中学校一斉避難訓練を実施し、各小・中学校と教育委員会が連携しながら、現況把握の訓練も行ったところである。また、マニュアル中には、「緊急地震速報の音源を用いた避難訓練の実施計画(例)」を記載し、現在、この計画(例)に基づき、すべての小・中学校で、緊急地震速報の音源を用いた避難訓練を実施している。これは、校内放送等で緊急地震速報の警告音を流し、この音を聞いて、「教室であれば、机の下に潜る」等、児童生徒が自分の身を守る行動を取るという訓練である。現在、上尾市では、幼稚園、小・中学校の連携教育を推進している。避難訓練においても、合同避難訓練を実施し、「児童生徒の保護者引渡し」や「中学生が小学生を送っていく」などの訓練を実施している。

〔平成25年12月12日(木曜日)〕

◆池野 耕司 議員

- 1 上尾市スポーツ振興計画の現状
 - (1) スポーツ施設の整備・充実について
 - ・市民体育館の利用状況について
 - ・平方野球場のトイレの整備について
 - (2) 上尾シティマラソン大会の過去3年間の状況について
 - ・開催費用について
 - ・参加費、市の補助金について
 - ・招待大学の参加状況について
 - (3) 上尾シティマラソンでのボランティアの支援・活動状況について
 - (4) スポーツボランティア制度について

上尾市スポーツ振興計画の現状 (教育総務部長 答弁)

○スポーツ施設の整備・充実について

市民体育館の利用状況であるが、市民体育館は東日本大震災により被害を受け、昨年耐震補強と併せリニューアル工事を実施し、今年度から指定管理者制度による管理運営を始めている。この市民体育館の利用状況については、今年度上半期4月から9月の利用者数は、162,744人となっており、東日本大震災の影響を受ける以前の平成21年度上半期4月から9月の利用者数111,510人と比較すると、約45%の増加となっている。また、平方野球場のトイレの整備についてであるが、現在、球場入口に常設トイレ1基、バックネット裏に仮設トイレ2基を設置してあるが、大会によってはトイレが不足している状況があるので、増設を予定しているところである。

○上尾シティマラソン大会の過去3年間の状況について

上尾シティマラソンは昭和63年に第1回大会を開催してから今年で26回目を数え、日本全国から多くの参加者を集める大会となった。この大会の過去3年間の費用についてだが、今年度は決算が完了していないので、平成22年から24年度の3年間についてお答えする。平成22年度開催の第23回大会の決算額は、3,519万8,851円となっており、そのうち主な収入は、市補助金800万円、参加費2,373万7,500円となっている。平成23年度第24回大会の決算額は、3,341万5,562円で、うち市補助金800万円、参加費2,372万7千円となっている。昨年開催した第25回大会の決算額は、3,629万3,032円となっており、うち市補助金8,943千円、参加費2,576万3,500円であった。なお、第25回大会では、前回大会まで協力いただいていた交通安全協会に代わって警備員配置を委託することとなったため市補助金が増額となったものである。このほか、大会に関係する企業などから協賛金をいただき、経費に充当している。主な支出内容については、選手エントリーから計測までの記録処理業務をはじめ、参加者への参加賞や入賞賞品、会場設営に要する委託料及び交通規制を周知する看板等の作成となっている。続いて3点目の招待大学の参加状況についてであるが、大会を盛り上げるため箱根駅伝に出場する大学を中心に招待している。年度ごとの出走者数については、平成23年度20大学370人、平成24年度17大学322人、平成25年度21大学430人となっている。

○上尾シティマラソンでのボランティアの支援・活動状況について

体育協会の各加盟団体から450人、市内11校の中学生141人及び市内の高校生・専門学校の生徒や大学生など総数で約900人のボランティアにコースの安全確保や選手サービスなどに協力を得て運営している。なお、ボランティアに対しては、昼食のほかスタッフジャンパーを配付している。

○スポーツボランティア制度について

上尾シティマラソンをはじめ各種大会の開催を通じ、体育協会の加盟団体をはじめ中学生・高校生など多くのボランティアの方々に支えられて運営している。こうした多くのボランティアによる「支えるスポーツ」は新たなスポーツ振興の一つの形となると考えられることから、各種イベント等においてボランティアの体験機会を設けるなど積極的に活用し、地域をあげてスポーツを支える機運を醸成できるよう、育成を図っていきたいと考えている。スポーツボランティアを制度化することについては、単発にイベントに参加することでは形骸化する恐れもあるので、事例をよく検討していきたいと考えている。

◆鈴木 茂 議員

- 1 地域での自習支援の取組みについて
 - (1) さいたま土曜チャレンジスクールについて
 - (2) 上尾市に同様な取組みはあるかについて
 - (3) 魅力ある学校づくり事業における同様の取組があるかについて
 - (4) 宿題カフェろばの子の会について
 - (5) 地域の自習支援教室への支援について
- 2 発達障害児支援について
 - (1) 平成25年度のアッピースマイルサポーターの配置要望人数と配置状況
 - (2) 特別支援教育コーディネーター、アッピースマイルサポーター、担任との三者の連携

地域での自習支援の取組みについて（教育総務部長 答弁）

○さいたま土曜チャレンジスクールについて

土曜日に地域の方の協力を得て、自主的な学習などをサポートする事業であり、様々な手法により、児童生徒を心豊かで健やかに育む学習環境づくりを推進する特色のある取組みの1つとして受け止めている。

○上尾市に同様な取組みはあるかについて

「上尾市に同様な取組みはあるかについて」であるが、土曜日に定期的に行う事業はない。しかしながら、上尾市の各学校では、保護者や中学生がボランティアとして、子どもたちの学習支援を行っている事例はある。市内のすべての中学校では、夏休みや冬休みの長期休業中に、希望する生徒が小学校に出向き、学習支援のボランティアを行っていると聞いている。また、平方小学校では、子どもたちの家庭学習プリントについて、保護者の中から募った家庭学習支援ボランティア「花まるサポーター」が答え合わせを行う活動が行われている。

○魅力ある学校づくり事業における同様の取組があるかについて

上尾市では、障害のある子どもへの早期からの支援については、乳幼児相談センターやつくし学園、幼稚園や保育所など、各関係機関と連携を図りながら取り組んでいるところである。具体的には、小学校入学前1年以内については、教育センターで就学相談を行い、それ以前については、乳幼児相談センターにおいて、育児支援・相談を行っている。乳幼児相談センターやつくし学園には、5月に教育センター就学担当が出向き、保護者に対して、就学説明会を行うとともに、その場で就学相談の予約も行っている。各幼稚園や保育所とは、4月に就学相談申込書を配布するとともに、教育センター就学担当が子どもの様子を直接参観するなどの対応を行っている。教育委員会としては、今後も乳幼児相談センターや関係機関との連携をさらに図り、子どもの健やかな成長に努めていく。

○宿題カフェろばの子の会について

「宿題カフェろばの子の会について」であるが、この会は、上尾富士見幼稚園とNPO法人なごみが協力して子どもたちのために無償の学習支援を行っていると聞いている。こうした「地域の自習支援教室への支援について」であるが、市では、宿題カフェろばの子の会等さまざまな団体が行っている子どもたちのための無償の学習支援活動については、各団体の自主的な活動ととらえており、現状においては金銭的な支援は考えていない。

○地域の自習支援教室への支援について

地域での自習支援の取組みということであるが、学校を支える地域では、子どもへの体験活動や安全や環境への配慮、学習支援など、独自の取組みが行われている。その中で、自習支援を統一的に取組む必要性については、様々な意見があるかと考えているので、研究課題とさせていただく。

【再質問】島村市長の教育理念について（市長答弁）

子どもたちの教育ということで申し上げれば、子どもというものは、無限の可能性を秘めている存在である。したがって、どの子どもたちにも志をもち、学力を身につけ、心豊かに健やかに育てほしいと願っているところである。次代を担う子どもたちを育てる教育は、重要な仕事と考えており、私としてもマニフェストにも掲げているとおり、教育環境の整備など、力を注いできたところである。今後も、子どもたちのきらめく笑顔が見られるように「夢・感動教育」を理念に取り組んでいる教育委員会と連携を図っていきたいと考えているところである。

発達障害児支援について（学校教育部長 答弁）

○平成25年度のアピースマイルサポーターの配置要望人数と配置状況

平成25年度当初、学校から報告された特別な教育的支援が必要な児童生徒の数は311名であった。配置人数については、報告を受けた、児童生徒の状況、学級の様子を教育センター担当者が参観し、総合的に判断した。現在、平方幼稚園と市内全小・中学校に72名を配置している。

○特別支援教育コーディネーター、アピースマイルサポーター、担任との三者の連携

各学校においては、校内委員会において、情報交換、個別の指導計画の作成や進捗状況を確認し、共通理解を図り、児童生徒の実態に応じた支援を行っている。さらに、日常の情報交換を密にするため、アピースマイルサポーターの日々の活動を記録した報告書を活用し、連携を図りながら児童生徒の支援を行っている。

【再質問】今後、特別な教育的支援が必要な児童生徒の報告数が増えていく場合、アピースマイルサポーターや特別支援学級の数を増やすという考えがあるかどうか（学校教育部長答弁）

アピースマイルサポーターの配置人数や特別支援学級の設置については、児童生徒の見込み数の需要予測を的確に行い、その数により、関係部署と十分に連携を図り対応していきたいと考えている。

〔平成25年12月13日(金曜日)〕

◆井上 茂 議員

1 上尾市特別支援教育基本方針

- (1) 上尾市特別支援教育基本方針の進捗状況と課題について
- (2) 課題解決に向けた上尾市特別支援教育基本方針の改訂について

上尾市特別支援教育基本方針（学校教育部長 答弁）

○上尾市特別支援教育基本方針の進捗状況と課題について

相談支援体制については、今年度から教育センターにおける就学相談対象を就学前の全ての年齢にまで拡充し、早期からの相談に対応できるよう整備した。また、アップスマイルサポーターと特別支援学級補助員の資質や支援力向上のために、「発達障害の理解に関する講義」「事例を挙げての研究協議」などの内容の研修を年間9回行っている。さらに、特別支援学級などの設置については、実施計画に基づき、今年度、新たに大石南中学校に特別支援学級を2学級設置した。また、来年度、西側に小学校の発達障害・情緒障害通級指導教室開設に向け、県教育委員会と協議しているところである。課題としては、特別支援学級などの新設に伴う教員の確保と資質の向上を図ることが必要であると考えている。

○課題解決に向けた上尾市特別支援教育基本方針の改訂について

教育委員会としては、昨年度に引き続き、上尾市特別支援教育検討委員会を開催し、特別支援学級などの新設を含め、本市の特別支援教育の充実について検討しているところである。なお、今後、県教育委員会と十分に協議し、連携を図っていきたい。

【再質問】上尾市特別支援教育検討委員会の委員の構成について（学校教育部長答弁）

委員は、特別支援教育に関し識見を有する聖学院大学教授、教育委員会の関係各課である総務課、学務課、指導課の課長、小・中学校からは、特別支援学級設置校連絡協議会会長、就学支援委員会委員長を務める校長で構成されている。

【再質問】上尾市特別支援教育検討委員会での検討内容について（学校教育部長答弁）

「本市の特別支援教育の推進状況」について関係各課から報告するとともに、「特別支援学級などの今後の設置計画」について、各学校の実態及び現時点での需要予測を踏まえながら検討し、今後の上尾市の特別支援教育の在り方について、審議しているところである。